

地域生活を支える 社会福祉法人

地域に根ざした就労・生活支援と 「いのちの森づくり」への貢献

社会福祉法人進和学園／神奈川県

理事長 出縄 雅之



「しんわルネッサンス」施設全景



「しんわルネッサンス」でのホンダ車部品組立作業

地域の概要と法人設立の経緯

●東海道の宿場町から 湘南の商工業都市へ発展

首都圏南部の神奈川県ほぼ中央、相模湾に面した位置に平塚市がある。相模湾の海岸線に沿う形で、国道1号線（旧東海道）とJR東海道線が市内を東西に横断している。東海道の宿場町として発展してきた商業地が平塚駅の北側に広がり、近年ではメインストリートで開催される7月の七夕祭りが有名となり、毎年約300万人が訪れるほどで、活気ある商業の町でもある。

平塚市の人口は、26万人程度だが、勤労世帯である20代から40代が全国平均を上回り、とくに男性が多い構成となっている。その背景としては、県庁所在地横浜市のベッドタウンとしての性格のほか

に、巨大な軍需工場の跡地に、自動車関連、電気機械、化学工場などが戦後に進出し、工業都市としての一面をもつからと思われる。

平塚駅周辺はビルが立ち並んでいるが、郊外の北部や西部には緑豊かな地域が広がっている。市の南西部で大磯町との境界にある180mあまりの丘陵地の一角、^{あわたらやま}泡垂山と^{こまやま}高麗山の山頂一体は地元住民から「湘南平」と呼ばれている。その湘南平に連なる天神山の丘の上に、社会福祉法人進和学園が運営する障害者生活介護施設「進和万田ホーム」がある。

●個人の遺産で知的障害児施設開設

社会福祉法人として認可されたのは1959年（昭和34年）だが、その前年に知的障害児施設「進和学園」を出縄明が創設した。出縄明の父意太郎は、旭村役場で圃場改良など農村復興に携わり、地域の農家から信頼を得ていた。その意太郎が常々語って

いた「社会に奉仕する心」を生かすため、昭和31年、意太郎の死後、自宅などの遺産を社会に捧げることを出縄明が決意し、親族は賛同応援した。

決意した理由は、彼は子どものころ吃音障害をもっていたことから、弱者の味方になろうと、神奈川県立平塚盲学校の教諭を務めていた。教え子のなかに、知的ハンディキャップをもつ重複障害の子どもがおり、その出会いを機会に障害児の施設をつくる決意を固め、家族の同意を得た。幸いにも、万田地区農家との親交が深かった意太郎の遺徳から、地域住民からの協力もあり、施設開設は好意的に迎えられる。

一民間人が施設を開設するには、さまざまな条件をクリアする必要があったが、小説家でもある戸川貞雄市長の応援もあり、神奈川県の指導のもと県の措置児童受け入れを開始し、知的障害児の入所施設としてスタートした。

開設当初は、30名の児童を3名の指導員・保母が寝食を共にするなど、指導方法も手探りの状態であった。さらに、運営費は厳しい状態で、園長の出縄明は北海道のとろろ昆布を仕入れ、支援者に購入してもらい、資金を補うこともあった。

一方、障害児の職業指導を目的として、平塚商工会議所から建物の無償払い下げを受け、職員が解体・移築して「職業指導教室」を開設したのが1963（昭和38）年。そこでは、原木しいたけ栽培、陶芸、木作業などの職業教育を行っていた。これが進和学園の生産・受注活動の基盤となる。



創設時の知的障害児施設「進和学園」

児童施設から成人の施設へ

◎「仕事をしたい」と大人が集まってきた

児童施設を開設した当時は、成人の障害者の入所制度はなく、1960（昭和35）年に「知的障害者福祉法」が制定されるまで待つことになった。

そうした状況下、1962（昭和37）年にKさん、翌年にはTさんが児童施設である「進和学園」を尋ねてきて、「私など生きていなくてもいいのですが、何か仕事をしたいです」と訴えた。出縄明は、その言葉に衝撃を受け彼らの住居と仕事を探すことになった。しかし、万田地区はキュウリ栽培など近郊型農業地で空き住居はなく、無住の大泉寺を檀家の厚意で仮住居として確保した。そして、平塚市教育委員会から市立体育館や学校のトイレ掃除を有償で請け負うことができた。この仕事を通じて、「人の役に立つ喜び」を得た彼らは、生真面目に学校美化清掃を行い、その後17年間も継続することができた。

◎地域に支えられて成人の入所施設開設

「進和学園」の児童も成人を迎える時期となることを考慮し、また大泉寺に間借りしていた成人の住居から、自前の安全な施設が必要となってきた。そこで法人は、成人の入所施設建設を決意した。資金面は、進和学園後援会長である戸川貞雄元市長の推薦で、南関東自転車協議会の助成金と県共同募金会の支援を受けることになった。用地は、万田地区の地主から「今まで社会の谷間に泣いたこともあるだろうから、今度は丘の上に住みなさい」と、丘の上の土地を借地することができた。こうして1966（昭和41）年、地域の人びとや行政の支援によって、緑豊かな丘の上に鉄筋コンクリート2階建て、入所30名の障害者施設「進和万田ホーム」が完成した（2009平成21年改築に伴い生活介護通所施設に移行）。

◎制度先取りのデイサービス、グループホーム開始

授産施設で働く障害者が、地域住民の一員として

生活することをめざし、グループで生活する試みを行政と協議した結果、1978（昭和53）年に神奈川県として制度化し、進和学園の「通勤ホーム（グループホームの前身）」を開設し、県下第1号となった。

その後、幾多の変遷を経ながらも、グループホーム、ケアホームを相次いで開設し、現在では14か所を数えるほどになった。グループホームで生活しながら生活訓練を終えて、地域で単身生活を営む障害者も増えつつある。

また、進和万田ホームの半径3km以内に、家族の介助を受けながら自宅で生活している重度の障害者が5名いることがわかった。そこで、せめて入浴・給食のサービスを施設で受けられるようにしたいと、市当局とも協議の上、デイサービスを開始したのが1979（昭和54）年のこと。

なかでも、市営住宅の5階に居住していたSさん一家は、父親・長女・長男の3人ともが小脳変性症で寝たきり状態であったことが判明した。それほどの重度障害者に手が届いていなかったことを反省し、市の協力のもと5階から1階へ転居させ、デイサービスを開始した。1980（昭和55）年には、人件費は県負担、事業費は市町村が負担する形で制度化されることになった。

その間、成人の障害者の支援に専念するため、知的障害児施設「進和学園」を1978（昭和53）年に廃止した。1980年代後半から1990年代にかけては、快適な居住空間を確保するため、「進和やましろホーム」（入所・通所施設）、「進和あさひホーム」（入所施設）を湘南平に相次いで開設した。

自己実現を図る就労の場確保

◎「働く喜び、役立つ喜び」を実感

衣食住の確保がある程度できたことから、そこに「職」を加える追求が始まった。1973（昭和48）年、住友銀行の頭取交替を記念して贈呈された寄附を基に、翌年授産施設「進和職業センター」を開

設、入所70名・通所定員30名でスタートした。ここでは、「働く喜び、役立つ喜び」を掲げて、作業種の自動車部品組立を、本田技研工業(株)のプロジェクトチームの技術指導を受けて開始した。以来、38年間にわたり、本田技研工業(株)の深い理解と協力のもと継続して取り組んでいる。自動車部品の組立は、人命にかかわる厳しい仕事でもあり、そのことから利用者は社会に役立つよろこびをも感じている。この受注窓口会社となる(株)研進は、本田技研工業(株)の要請により、元本田技研工業(株)社員であった法人理事の出縄光貴が設立し、進和学園と役割分担しながら事業を進めている。進和職業センターは、現在地域移行も進み入所定員40名となり、自動車部品組立、封入・梱包、製粉、陶芸、エコクラフト、清掃など、幅広い分野の生産・受託活動を行っている。

その後、生活介護・就労継続支援B型の通所施設「サンメッセしんわ」を開設し、自動車部品組立、



エコクラフトによるクッキー箱組立作業



「サンメッセしんわ」での製パン作業風景

紙すき、農園芸、製パン、給食、クリーニング、陶芸、竹炭製造などを行っている。

2006（平成18）年には福祉工場「しんわルネッサンス」を開設し、同所に進和職業センター通所部門が移転し、現在は就労継続支援A型・B型、就労移行支援事業を行う施設となっている。ここでは、自動車部品組立の中核拠点となっており、品質マネジメントシステムISO9001認証を取得している。ほかには、封入・梱包作業、シイタケ栽培、ポット育苗、園芸、農業、清掃作業に取り組んでいる。

◎「生活の充実」をめざす本人自治会活動

成人施設の運営開始以来、利用者本人を尊重する意味を含めて「利用者本人中心主義」を掲げ、法人では利用者のことを「本人」と称している。

施設ごとに本人自治会を組織し、行事や文化活動を職員のサポートを受けながら行っている。さらに、各本人自治会が連合会を組織し、各自治会役員による定例役員会で自主的に運営されている。自分たちの生活の楽しみばかりではなく、他者への気配りの一環としての募金活動も毎年行っている。

地域との交流の歩み

◎地域ニーズに応じて保育所開設

法人が児童施設や進和万田ホームを開設する際、万田地区の深い理解と好意的な協力に感謝し、恩返しの気持ちと乳幼児の福祉に役立ちたいと、1969（昭和44）年「いずみ保育園」を開設した。地区婦人会の夜間の会合に保育室を提供し、運動会には地区自治会や敬老会、「万田太鼓愛好会」の方々が毎年参加するなど、地域との交流を深めている。次いで、1978（昭和53）年に平塚市の要請で「富士見保育園」を開設し、2つの姉妹保育園で地域の保育ニーズに応える運営を続けている。

◎法人も市民の一員として活動

2001（平成13）年から、万田・高根地区住民、



進和学園が出品した七夕飾り

法人職員、本人自治会連合会が協力して、湘南平公園の南斜面にアジサイ4,000本を植栽し、毎年梅雨時には「あじさいまつり」を開催している。

また、市民の花であるナデシコの苗を施設内で育て、開花時期には市役所前に「ナデシコ花壇」を設け、また苗を地域や市民に配布する活動を続けている。

さらに、「湘南ひらつか七夕まつり」に法人として毎年参加し、手づくりの飾りが好評を得ている。

森づくりによる就労支援

◎成果を上げる「いのちの森づくり」プロジェクト

苗木の栽培・販売・植樹によって、森づくりと障害者の就労、環境に貢献する取り組みを進和学園が2006（平成18）年に開始した。

出縄明が、国際生態学センター長で横浜国立大学名誉教授の宮脇昭先生の潜在自然植生理論「土地本来の樹木による本物の森づくり」に共鳴したのがきっかけとなる。同年に開設した「しんわルネッサンス」の敷地内の植樹指導および講演会をお願いしたことから始まった。

緑に囲まれた法人施設の周辺には、シイ、タブ、カシなどの常緑広葉樹が多くある。ドングリを拾って苗木に育てれば、森をつくることも可能で地球環境にも貢献できる。しかも、障害者の働きがい、生

きがいにつながり、栽培・販売量が多くなるに従い、工賃の上昇も見込まれるプロジェクトである。

現在では、全国各地の自治体や企業、学校、市民団体などからの注文がきている。苗木は、高木・中木・低木をあわせて30種類以上になり、2011年の出荷数は2万8千本、4年間の累計は6万4千本を数えるまでになった。

障害者11名の「どんぐりグループ」がビニールハウスで、発芽・育苗・ポット移植作業を行っている。また、2008年には「いのちの森づくり基金」を創設し、個人や企業、団体からの寄附の受け皿を設けている。この基金を活用して、「どんぐりグループ」が各地の植樹に出向いている。



「どんぐりハウス」でのポット苗の栽培風景

●進和学園から世界へ

「いのちの森づくり～進和学園から世界へ」は宮脇先生の講演時のタイトルだが、そのまま現在のプロジェクト名となっている。「いのちの森づくり」は進和学園から発信しているが、より大きな森とするためには、法人や施設を超えたムーブメント、連携が必要だと考えている。そこで2011年より、社会福祉法人湘南の凧、障害者就労移行支援事業者(株)ラビー、社会福祉法人小田原支援センターと連携して育樹作業を実施している。

今後は、県内のより多くの障害者施設との連携、あるいは苗木栽培を行う施設へのノウハウ伝授などができれば、面的な広がりも可能となる。さらに、「その土地本来の樹木による森づくり」を目的とすることから考えれば、北から南まで全国各地の福祉施設が、その土地に適した苗木栽培による植林を行うことで、森づくりが広がっていく可能性を秘めている。

そのための連携システム・栽培技術の伝達法など、そのノウハウの蓄積が課題になると考えている。

法人の概要

法人名：社会福祉法人進和学園

理事長：出縄 雅之

本部住所：神奈川県平塚市万田475番地

・在宅就業支援団体として厚生労働省に登録
(2011年4月1日)

事業内容：

保育所

「いずみ保育園」

保育所

「富士見保育園」

地域子育て支援拠点事業

「つどいの広場どれみ」

生活介護

「進和万田ホーム」(通所・単独型短期入所)

居宅介護・重度訪問介護・行動援護・移動支援

・タイムケア事業

「ビーライトしんわ」

障害者支援施設・生活介護

「進和やましろホーム」(入所・短期・通所)

障害者支援施設「進和あさひホーム」(入所・短期)

障害者支援施設・生活介護

「進和職業センター」(入所・短期・通所)

就労継続支援A型・B型・就労移行支援

「しんわルネッサンス」(通所)

就労継続支援B型・生活介護

「サンメッセしんわ」(通所)

従たる事業所「しんわやえくほ」(通所)

障害者グループホーム・ケアホーム

「しんわグループホーム」共同生活住居14か所

障害者就業・生活支援センター・相談支援

「サンシティひらつか」

直営販売店

「ともしびショップ湘南平」(自主製品販売・喫茶)

直営販売店

「プチ・ブーケ」(パン・クッキー等製造・販売)

生産・業務受託内容：

業務受託部門(ホンダ車部品組立、クリーニング、商品封入・梱包など)

役務提供部門(農作業、古紙回収、清掃作業など)

アグリ部門(野菜栽培、原木しいたけ栽培、花卉栽培、どんぐりポット苗、竹炭、有機肥料など)

フード部門(パン・クッキー・ラスク製造、製粉・

精米、食品加工、給食など)

アート部門(陶芸、紙すき、相州だるま、エコク

ラフト、手芸品、工芸品、小基盤など)